インフォームド・コンセントを受けない場合の研究内容の公表用基本フォーマット

情報公開の方法 □ 院内掲示 ■ 井上病院のホームページで公開する

研究課題名	診療看護師(NP)による退院後訪問指導が30日再入院・予期せぬ受診に与える 影響を調べる前向きコホート研究(承認番号 306)
研究の意義・目的	医療ニーズが高い虚弱な患者において、病院から在宅へのケア移行は再入院率が高いことがこれまでの研究で報告されている。世界的には、Nurse Practitioner (NP)が高リスク患者に対して退院後に在宅訪問を行うことで、再入院や救急外来受診といった医療利用の減少と関連する可能性が示唆されている。これらの知見は、NPが一定の診療上の権限を持つ国々から報告されたものであり、すべての国に当てはまるわけではない。日本においては、診療看護師の法的権限は限定的である一方で、医療ニーズの高い患者に対して退院後 30 日間に看護師が在宅訪問を行う「退院後訪問指導制度」が整備され、実践されている。井上病院では 2024 年 4 月に指導医・専攻医・診療看護師で構成される総合内科を新設し、2025 年 3 月から診療看護師による退院後訪問指導を開始した。本研究では、診療看護師による退院後訪問指導を受けた患者の医療利用(再入院や救急外来受診)への影響を明らかにすることを目的とし、前向きコホート研究を実施する。その中で、診療看護師による退院後訪問指導開始前の同様の対象患者と比較を行い、その効果を検証する。(1) The outcomes of nurse practitioner (NP)-Provided home visits: A systematic review. Geriatr Nurs. 2020 Nov-Dec;41(6):962-969. (2) Cardiac Surgery Nurse Practitioner Home Visits Prevent Coronary Artery Bypass Graft Readmissions. Ann Thorac Surg 2014; 97: 1488–95.
研究期間	2024年4月~2028年3月
研究対象者の範囲	2024 年 4 月から 2028 年 3 月に井上病院に入院し、総合内科の診療を受けた 患者さまが対象です。
利用又は提供する 試料・情報の項目	患者さんの診療情報(電子カルテ)から基本情報:年齢、性別、BMI、診断名、フレイル度、合併症、薬剤使用状況、入院日数、要介護度、訪問診療・訪問看護の使用の有無、入院の種類:緊急入院・予定転入などを収集します。
研究成果を公表す る方法	学術集会での発表や論文作成
試料・情報の提供 方法	特記すべきことなし
研究組織	● 試料・情報を利用する者の範囲としての研究機関名とその代表者氏名 ● 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称 【研究代表施設】施設名:
	研究代表者 所属:診療部総合内科 職名:部長 氏名:濱田治 【共同研究施設 1】施設名: 職名: 氏名:
拒否機会の保障	本研究の対象者の方は、問い合わせ先に連絡することによっていつでも本研究への参加を拒否することができます。また、研究への参加を拒否されても、診療に関する不利益等を受けることは一切ありません。
拒否を受け付ける 方法 研究対象者 等及びその関係者 からの相談等への 対応	連絡先:社会医療法人愛仁会井上病院 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町 16-17 電話番号: 06-6385-8651 担当者:診療部 総合内科 部長 濱田 治